

## APDXC 2010

JA3USA 島本 正敬

今回で3回目を迎えたAPDXC 2010 (Asia Pacific DX Convention)が好天に恵まれた11月5～7日に行われた。これまで皆勤の W0GJ、K6SV、ZL3TE、VR2BG等に、初参加の国アゼルバイジャンからの4J5T、4K5D、モンゴルからのJT1BV、ポーランドからのSP5XVY、フィリピンのDU6BG等も加わり、これまでも増してアットホームな雰囲気になって、プログラムが進行した。プログラムと言っても毎回ほぼ同じ構成で代り映えもしないのだが、どうもそれが人気の秘密のようにも思える。いつも金曜～日曜の3日間ということにはなっているが、DXからの参加者にとってAPDXCは木曜の夜に始まる。

初日金曜日のアイコム工場見学ツアーは朝9時出発とあって、DXからの参加者は前日までにホテルに入る。大阪国際交流センターホテル、ロイネットホテル、シェラトン都ホテルに分散して宿泊をしたのだが、宿泊者数の多かったロイネットホテルに夜7時過ぎからDX参加者の殆どが集まって再会や初対面のアイボールQSOとなった。それは長い時間続くものではないのだが、和やかな雰囲気の中で行われる恒例の行事ともなっている。

[ 金曜日 ] (07/ Nov.)

金曜日の朝9時、DXからの参加者を乗せたアイコム工場ツアーバスが大阪国際交流センターを出発する。1時間半から2時間のバスの旅だが、車内ではラグチューの輪がいくつもでき、退屈する人は一人もいない。過去2回いずれの場合も、出発に間に合わなかった参加者を拾うため関西空港近くへ迂回したバスだが、今回初めてノンストップで有田工場に到着した。工場の方々の歓迎を受け、写真も撮り放題という破格の待遇を頂いた工場見学。オートメーションの基板製造から商品が梱包されるまでの全行程をゆっくりと見せて貰った後、みんなで記念撮影。これがAPDXCたった一枚の集合写真となった。昼食を頂き、再び乗ったバスは紀ノ川工場の経て、APDXC恒例のQ&Aセッションのためアイコム本社へ向かった。井上会長やアマチュア無線機開発に携わる主要な方々を相手に熱のこもったQ&Aが続く。アイコムの工場見学のためにAPDXCに参加したという人もいるくらいの人がいることに加え、メーカーの開発の人たちに直接質問したり意見を述べたりできるめったにないチャンスなのだから、Q&Aが白熱したものとなるのも当然だろう。

2時間ほどのセッションを終えても話し足りなさを感しながら、夜のウエルカムパーティーに間に合わせようとしてバスは大阪国際交流センターに向かった。

APDXCは午後6時の参加登録受付で正式には始まり、最初のプログラムであるウエルカムパーティーへと続く。このパーティーは、ホストであるA3FAのスピーチで始まる。途中で音楽が入ること以外ほとんど趣向らしい趣向もないのに、あっという間に2時間余りが過ぎて行く。K6SVが第一回目からこのパーティーの司会を務めてくれているが、ほとんど出番がない。みんなそれぞれがアイボールQSOを楽しんでいるのだから、ハムの集まりでは邪魔なプログラムはまったく不要。これほど楽な進行役はない。

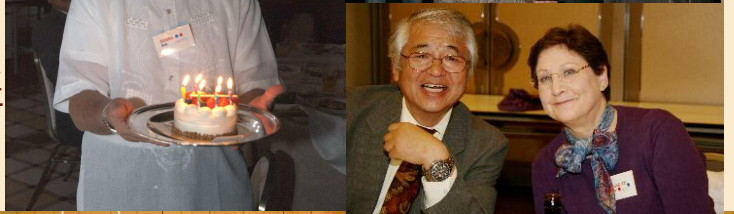


[ 土曜日 ] (08/ Nov.)

二日目はいつも観光ツアーでスタートする。これまで、京都、奈良と普通のバスツアーを催してきたのだが、一般の旅行者では困難な企画をとの意見に応え、今回は体験ツアーをしてみようということになった。以前新聞記事で見た「お茶づくり」体験ツアーをと思いついて探してみると、煎茶の手揉み作りの体験コースが宇治にあることが判った。この場所は設備の制限から一回あたり10名までで、コースは2時間半とか。無理をお願いして十数人を2回に分けて実施することができた。参加者を2グループに分け、一方がお茶作りをしている間、他方は平等院見学と茶室体験となる。幸いお天気も良く、各場所を歩き回ったり宇治川の中州にある公園でお弁当を頂くにも大変好都合だった。参加者がハムの話を全くしなかったのは3日間で、このお茶作りの間だけだったように思える。周囲の山々も紅葉の時期を迎え、宇治川の流れと相まり、お茶作りや茶室体験ツアーがより一層楽しいものとなった。一生懸命作ったお茶は各自が持って帰るに十分な量。こんなことから、また体験ツアーをとの「ウエスト」に応え、次回のための新しい趣向を探さねばならなくなった。

予定通りツアーから戻った頃、大阪国際交流センターではディナーの用意が進んでいた。会場の「さくらの間」の前では夜6時からウエルカムドリンクが振舞われる。ディナーへ参加しようと集まった人たちはグラスを片手に三々五々DX談義を始めるのはAPDXCの恒例となっている。6時半にはディナーがスピーチもなしで始まる。各テーブルを囲む7~8人はDXとJAが適当に混在する。これもウエルカムパーティ同様、何のプログラムが用意されていなくても、ディナーテーブルを囲んでアイボールQSOで盛り上がっている。そんな時、照明が暗くなりキャンドルの点いたケーキが、その日誕生日を迎えたDU6BG Bobbyのために届けられた。彼はまったく予想だにしていなかったのだろう。とても感激したBobbyの表情と仕草が今も忘れられない。

K6SV George提供の2011年Hamカレンダー十数冊を抽選でと企画していることを聞いたアイコムの方がいろいろな賞品を用意してくれたので、ディナーの終りにAPDXC初となる抽選会を催した。



[ 日曜日 ] (09/ Nov.)

午前9時過ぎから午後4時過ぎまで、いつも同様にプレゼンテーションが開かれた。これまでDXからの参加者によるプレゼンテーションばかりであったが、JA3AOP 杉山さんが初のJAによるプレゼンテーションを行った。三日目のプレゼンテーションの様子はいつもと同様、ビデオに収録されAPDXCのWEBサイトでご覧頂けるようになりますのでご覧頂きたい。

DXからの参加者数は少しではあるが上昇傾向にあるのに、JAの参加者が毎回減少しているため、全体の参加者数が減少している。そのことを開催直前まで大変心配し、どちらかという重い気持ちでスタートしたAPDXC 2010だったが、コンベンション全体の雰囲気はこれまでで最も良かったように感じた。常連参加者、初参加者の区別なく、全員が親しみを持って接し、同じ思いを持ったひとつの連帯感のようなものを感じることができ、APDXCを始めて良かったと今回ほど感じることはなかった。APDXCは今回で最後にしよう、正直なところ準備の過程で思うことが何度かあったのだが、終わるころには「絶対にやめない」という気持ちにさせてくれる雰囲気で満ち溢れていた。



# 中国で初めてのSEANETコンベンション \* \* \* 第38回SEANETコンベンション速報 \* \* \*

JA3AER 荒川泰蔵

第38回SEANETコンベンションは、2010年11月5日から5日間、上海市のオリンピックホテルを会場に、SRSA (Shanghai Radio Sports Association)のメンバーによる組織委員会が主催して開かれました。今回は日程がAPDXCと重なり残念でしたが、当ラジオクラブからは、JA3AA島さん、JE3BEQ宮本さん、JR3MVF三好さん、それに私JA3AERの4名が参加しました。他にJO3TIC新開さん、JA4DPL吉房さん、JA4CHK馬場さんが加わり7名が関西国際空港を5日の朝出発して上海の浦東(Pu Dong)空港に到着しました。空港ではBA4HU、HuさんとSWL, Quian Waik さんが到着ロビーで出迎えてくれました。会場では長老BA4AA, Xu RuさんはじめSRSAの皆さんや、先に到着した参加者達が出迎えてくれました。今回の参加者約200名の内、海外14ヶ国からの参加者は100名を超えていましたが、日本からの参加者は15名(上記以外に7K3EOP, JA1BRK, JA1RJU, JR1FBE, JH3AAZ, JR6XIW, JR6XIX, JA0AD)でした。ロビーの受付で登録を済ませ、ホテルの一室にセットアップされた特別局BT4SEAを覗いてみました。FT-950と3エレメント・トライバンドの組み合わせで14MHz, 21MHzそれに28MHzがQRVできる状態にあり、免許を持つ参加者は誰でもゲストオペが出来るようになっていました。このコールサインはSEANETコンベンションの開催期間中だけで、QSLカードの送り先はShanghai Radio Sports Association, PO Box 085-205, Shanghai, China. とのことでした。

初日はホテル内のレストランで、各自アイボールQSOを楽しみながらピュウフェスタイルの食事を共にし、親睦を深めるようセットアップされていましたが、BA4AA, Xu Ruさんが、1980年代のアマチュア無線再開時にお世話になった人達を、またBY4BZBのオペレーターSunhuan Shengさんが1999年に大阪を訪問した時にお世話になった人達を夕食に招待したいと、旧フランス租界にあるレストランにJR3MVF三好さん、JA3AA, JH3AAZ島さん親子、JA1RJU小笠原さん、JA4CHK馬場さんと私JA3AERの日本人6名が招待され、他にBA4HU, Huさん、通訳のKo Bunbo さん、BG4FA, Wang Fenfaさんが同席して、お互いの再会を喜びあいました。これは故JA3UB三好さんの長年にわたる中国への貢献と国際交流が実ったもので、日中の政府間がぎくしゃくしているこのような時期にでも、義理堅くもてなしてくれる中国人に感謝するとともに、草の根での国際交流の大切さを知らされたひと時でした。



2日目は朝食後3台のバスに分乗して上海市の中心にある人民公園に出かけ、歴史を感じさせる上海博物館を見学しましたが、ここにも日本に関する展示がありました。昼食後は上海随一の繁華街である南京東路を自由に買物や散策をした後、対岸の東方明珠塔(The Oriental Pearl TV Tower)や高層ビルが一望できる黄浦公園に集合してバスでホテルに戻ったのですが、南京東路の散策中、JA4CHK馬場さんと私を郵便局に案内してくれたBA4HU, Huさんが、ここから近いと自分のシャックへ案内してくれました。繁華街を少し離れた路地裏の長屋でしたが、中国で個人の家を訪問するのは初めてでした。これも馬場さんの長年にわたる中国との国際交流、Huさんとのお付き合いで信頼を得ていたためだと思います。



夜は歓迎会 (Welcome Banquet) が開かれ、組織委員長であるBG4C AB, Chen Yipingさんの歓迎挨拶で始まり、若いIBD4AAQ, MichaelさんとSWL, Leihaさんのコンビで英語と中国語を交互に操りながらのてきぱきした司会は印象に残りました。ここでは、去る6月に行われたSEANETのコンテストの表彰式もあり、JAからはJA4DPL吉房さんがシングルオペレーターの部門3位で組織委員のLi Weitingさんから表彰状が渡されました。そして食後の抽選会ではJO3TIC新開さん達多くの日本人にもラジオなどの賞品が当たりました。





3日目の午前中はアマチュア無線に関する講演が行われ、最初に元YLRL会長のWA0WOF, KayさんがアメリカのYLクラブの歴史と活動について講演し、続いて北京から参加したBY1HAM, Chen Pingさんが中国のアマチュア無線の歴史を含め、現状と今後の課題について講演しました。続いてはタイから参加したHS1ASC, Thidaさんが、ボーイスカウトやガールスカウトの活動と連動して、子供達にアマチュア無線に興味を持たせている様子をスライドで写真を示しながら説明しました。また、オーストラリアから参加したVK8GW, Gary Trevor Woodsさんが、広いオーストラリアをキャラバンで移動運用した経験や、SEANETのネットコントロールをした経験などを語りました。その後、BD4CR, Chen Yonglinさんが7月に行った、日食時のHF帯の通信実験について講演し、CAMSATのBA1DU, Gong Wancangさんが中国のアマチュア無線用通信衛星についての講演と、合計6つの講演を聞くことができました。

午後はまた3台のバスに分乗し、SRSAの本拠地であるBY4AA局の見学に出かけました。これは上海市軍事体育倶楽部内にあって、我々の見学に合わせて屋外にも種々の展示をしてくれていました。ラジオクラブの多くのメンバーにはおなじみの3階の無線室ですが、応接室などに区切られて以前より狭くなっていました。別室には新しく軍事や体育を含めた展示専用室が設けられ、軍事模型(飛行機や船の模型)やスポーツに関する素晴らしい展示がありました。また、1階にはBA4AA, Xu Ruさんが経営する上海唯一のアマチュア無線機器の販売店が健在でした。

その後、市内の観光地、豫園(Yu Garden)とその周辺の商店街を散策し、近くのレストランで夕食を済ませて、観光船で黄浦江(Huangpu River)から兩岸の夜景を楽しみました。

4日目は、東方明珠塔(The Oriental Pearl TV Tower)の見学から始まり、高さ468mのタワーの259mの展望台までエレベーターで昇り、市内を一望と期待したが生憎の曇り空で視界はそれほど良くはありませんでした。スモッグか黄砂の関係かも知れませんが、展望台は90mの位置にもあり、また違った景色を楽しませてくれました。3台のバスは市内を横切って高速道路を西に約40分、淀山湖畔の上海大観園(Grand View Garden)に到着、食事を済ませて湖上をモーターボートで楽しみ、小説「紅樓夢(The Red Mansion of Dreams)」をもとに造られたという大観園を見学しました。

この日の晩餐会(Gala Party)は再びオリンピックホテル内のレストランで開かれ、ピュッフエスタイルの夕食をしながら、恒例の国別パフォーマンスを楽しみました。日本の番ではJE3BEQ宮本さんの指揮で「浜辺の歌」と「上を向いて歩こう」を全員で合唱しました。最後は主催国中国の合唱でしたが、会場の全員が大きな輪になって踊りました。

最終日の会議は9M2KN, Dr. Kenが司会を務め、SEANETのバナーは上海から2011年の開催地ブルネイへ引き継がれました。ブルネイでのホスはBrunei Darussalam Amateur Radio Association (BDARA)が務めるとのことで、会長のV85DX, Pg Hj Salleh Ab Rahamanさんが歓迎の挨拶をし、V85TL, Hij Tamat Hij Lampohさんがブルネイでのコンベンションの概要を説明しました。それによりますと会期は2011年1月18日から20日までの3日間で、The Centrepoint Hotelで開催されます。参加費用はホテル代を含めたパッケージでUS\$520とのことです。今から貯金をして是非参加してください。そして2012年の開催地はマレーシアのクアラルンプール(KL)に決め、9M2RS, RashidさんがスライドでKLを紹介しました。最後の食会では皆とブルネイでの再会を約して別れました。帰国便の出発時間に合わせてホテルから空港までのミニバスを数回に仕立てて送ってくれましたが、BA4AA, Xu Ruさんをはじめ組織委員会のメンバーが最後まで見送ってくれました。





在りし日のJH3GAH/後藤太栄さん



## 後藤さんを偲んで

JR3MVF 三好京子

晩秋の高野山は静かでした。11月28日の日曜日にZAGのメンバー4名(JA3AA, JA3AER, JEBEQ, JR3MVF)とJA4HCK馬場さんの総勢5名で後藤さんのご自宅、西禅院を訪ねました。今年の初春頃、高野町長やその他の役職をお辞めになったとのニュースが駆け巡り、"どうされたのだろうか"と皆が心配していました。そして10月末に亡くなられたとの連絡があり、私も一度お参りにとっていました。お参り当日が、35日の法要の日だとは思わなかったので、参加者一同、これも後藤さんの導きだったのではと話し合いました。

後藤さんは古くからのZAGのメンバーでしたが、その後JARLの役員や高野町長として、いろいろな所で活躍されているとお聞きしていました。私の最後の思い出としては、2006年の大阪で開催されたSEANETコンベンションにご家族で参加され、"忙しくて何のお手伝いもできないので、せめて家族で参加することで協力させていただきました"と話された事です。多方面に亘り配慮された後藤さんがこんなに早くSKされたことは、アマチュア無線界にとっても大切な人材を亡くしたと本当に残念に思います。

合掌



大阪国際交流センター・ラジオクラブ  
J13ZAG

## シャッター・チャンス

### Tirolの山間の村Obergurgl (オーバークールグル)

JA3AOP/杉山 暁

オーストリアの西の都インスブルックを通る欧州自動車道路は南へ向かいアルプス越えてイタリアに入るE45と東西に走るE60がある。インスブルックからE60を西へ40kmほど走ると谷間を南へアルプスに向かう道がある。50kmほど走ったところにきれいな村があった。村を見下ろせる場所から撮ったポジフィルムの写真です。さらに、アルプスに向かって進むと森林限界を越え夏でもわずかな草しか生えないV字谷、その谷底に光る一本の水はどこまで続きます。やがて突然目の前に氷河が現れました。ここでは夏の間もスキーが楽しめます。もう15年以上前のことなので地名も忘れかけていましたが、Google map と空撮写真が記憶をたどる手助けをしてくれました。

今年の新年号から始めたシャッターチャンス欄今月で閉じることに致します。2011年からはフォトコーナーとして生まれ変わります。自由なテーマで写真と説明をご投稿下さい。

